

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人松山やっちく会
事業所名	グループホーム松山あじさい
所在地	鹿児島県志布志市松山町泰野字松ヶ迫1111番地 (電話) 099-487-8200
自己評価作成日	平成28年10月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族との信頼関係と利用者のご家族との絆を深める事を目的に、年に3回の家族会を開催している。家族会終了後は毎回食事を交えた交流会を実施し、意見交換の場としている。他にも、日頃からご家族の面会時には状況報告も行っており遠方の御家族に対しては、電話で報告を行ったり、年に1回アンケートを実施することでご家族の苦情や要望をお聞きしサービス向上に繋がるよう図っている。外出支援支援について、年間を通して、季節ごとの外出(遠足・花見等)、ドライブ等を実施している。地域との関わりについて、地域の行事を見に行ったり校区の運動会や法人事業で同地域にある保育園の運動会・夏祭りを見に行ったりと、地域とのつながりが途切れないよう支援している。災害対策について、防災訓練を消防署の指導の下、併設施設(特養)との合同訓練を年に2回、独自に年2回実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、自然豊かな山間に位置し隣接した特別養護老人ホームとともに地域に受け入れられ、デイサービスや居宅介護支援事業所、訪問介護事業所との連携があり、入所の相談や地域の方々との交流促進が図れている。また、法人主催の勉強会や内部研修、外部研修への参加も柔軟に取り組み、職員のスキルアップや資格取得に力を入れている。
- 防災への取り組みも老人ホームと連携し、年2回実際に夜間帯に避難訓練を合同で実施し、単独でも年2回避難訓練を実施している。地域の協力体制については、法人で組織化されており避難訓練時も地域から3名の住民が応援にかけつけ、避難訓練は計画通り実施されている。
- ホームは、利用者の楽しみの一つである食の自立について柔軟に取り組んでいる。食事形態を工夫したり、食事介助している。夏場は室内で冷たいソーメンを楽しんでもらったり、菜園できゅうり、にがうり、シソの葉などを収穫し料理に取り入れたり、園庭で炭火の焼き肉、法人施設ですいか割りを楽しむなど夏の風物詩を味わっていただける。また、年3回の家族会・交流会では家族会終了後、家族と一緒に手作りの食卓を囲むなどして会話も弾み笑顔が見られている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく自由に暮らせる喜びと自信を馴染みの環境の中で、安心して生活できるように支援する。過剰な支援、干渉を控える。個人に合わせ適度であること」を理念として掲げ取り組んでいる。	法人やホームの理念があり、職員の理念を意識して職務に取り組んでいる。利用者が主体的に暮らし職員が寄り添う日々を送りたいという理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との日常的な交流はないが、地域の行事やイベントには参加しており併設の特養の夏祭り等へも参加をしている。	ホームは、中学生の職場体験や実習生の受入れ、保育園児との交流活動に力を入れ地域と交流したり、法人の行事やイベントを通じて日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実習生の受け入れ、中学校の職場体験の受け入れを通して認知症への理解を促している。ただ、地域の方々へ認知症の理解を深める活動はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催しており利用者・サービス状況、施設の取り組みを報告している。また、外部評価や情報の公表についての報告もし、意見を参考にサービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	会議は、利用者を始め家族代表ほか多数の参加があり、事業所の取り組みや課題などについて積極的に意見交換しサービスの質の向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや福祉事務所等の連絡をとったり、必要に応じて市町村担当者から助言をもらっている。また、運営推進会議に参加して頂いている行政の方とも意見交換を行ないサービス向上に取り組んでいる。	市担当者は、運営推進会議への出席や電話、面談などで指導、アドバイスなどを頂戴しており、協力関係を築いている。また、市主催の研修会の案内もあり積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外研修を通して身体拘束について全職員が理解を深めるようにしており、普段から目に見えない言葉での拘束についても注意してケアに取り組んでいる。玄関や窓等の施錠も含めて身体拘束はしていない。	身体拘束防止マニュアルがあり、年1回勉強会を実施し知識や技術を研鑽している。理念に自由な暮らし、安心安全な暮らしを掲げ実践しているホームである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修を通して高齢者の人権擁護や虐待防止について学ぶ機会を設けている。普段から虐待について注意を払い虐待を未然に防ぎ虐待のない施設を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外研修を通して学ぶ機会はあるが、現状ではそれを活用する機会がない。いずれは必要とされる時が来るので研修を継続し活用できるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約は利用者及びご家族に対し十分に説明しご理解を頂いている。また、利用料金等の改定時は、その都度機会を設け説明をし、理解・納得して頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族の代表に参加して頂き要望や意見を聞いている。また、普段からご家族の来園時には状況報告を行い、ご家族の意見も聞く機会としている。他には、年3回の家族会、年1回のアンケートを実施するなどし、ご家族からの苦情や要望を聞く機会も設けている。	毎年9月に利用者、家族向けのアンケート調査を実施、8割程度の回答率である。アンケート結果は、家族会で話し合わせ、実際に食事のメニューを変更した事例がある。年3回家族会を開くなど、運営についての意見、提案を聞く機会も多くサービス向上につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や毎月のスタッフ会議の場、他には個別に随時職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。	管理者は、直接職員と面談して意見や提案を聞く機会を設けたり、職員会議時、意見交換している。公休が取りやすく働きやすい職場環境を整備するなど柔軟に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に応じ、できる範囲で本人の要望を聞きながら柔軟な勤務調整を図っている。また、事業所内のユニット間移動や資格に応じた配置・手当等で職員間の向上心を促していけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修はもちろん、施設外研修へもできるだけ参加できる機会を図っている。また、必要な資格取得への挑戦も勤務の調整を行い確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>主に管理者同士の情報交換が少しある位である。施設内外研修の場でできるだけ情報交換などの交流を図るようにはしているが、向上に繋がるまでには至っていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居前の事前面談で本人が困っている事、不安に思っている事を本人、家族・入居施設関係者からお聞きし、全職員が情報を共有し把握したうえで、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居時に家族の意向や要望をお聞きし、その中で事業所の対応について説明し、少しでもご家族が安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時や入居時に本人とご家族が求めている事や要望をお聞きし、その中で事業所の対応について説明し、少しでもご家族が安心できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な支援はせず、本人の持っている能力を生活の中で活かせるよう支援している。また、共に生活をする者として敬いながら支え合う関係を持ち、安心して生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での行事（家族会等）で来園時や面会時にご家族に状況報告し、共に支え合う関係であることを認識していただき、本人と家族の絆を大切に支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・本人の思いを尊重し、自宅への外出・泊支援や隣接する施設にいる友人・知人に会いに行ったり、デイサービス利用時の友人といつでも面会できる機会を設けている。	家族に協力をもらいながら盆・正月、年忌の外出や外泊ができるよう支援している。隣接の老人ホームやデイサービスに通う友人との交流活動や年賀状などの代筆、代読、電話の取次ぎなど関係性が継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を一緒に摂ったり一緒に外出したり、共通の話題があること、環境作りに配慮することで利用者が孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を維持していき、必要に応じて相談や支援をしていくことをお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや希望の把握に努めている。困難な場合でもご家族から話を聞いたり、できるだけ本人の意思に沿うような支援を心がけている。	利用者の言動や生活の様子を見ながらコミュニケーション活動を促進するなど本人の思いを家族、職員間で押し量り共有し、本人の望む暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等を把握しできるだけ馴染みの生活を少しでも維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の変化に合わせた支援を本人のペースで行っている。本人の変化する機能についても、職員間で共有し個人に合わせたサービスを行なえるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの生活に対するニーズやケアについて、職員間でその都度検討し、家族の協力を得ながら本人が望む生活が実現できるように努めている。	アセスメントから課題を抽出し、分析して目標設定し、6ヶ月ごとに評価、見直しを実施している。毎月のケース会議では、新たな課題の発見や見直しの必要性についてモニタリングを実施するなど柔軟に取り組んでいる。遠方の家族には、電話で内容を説明し郵送して情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子や気づき、実践の様子を個別記録台帳に記載し、職員間で情報を共有しながら、必要に応じてケアの方針を検討・見直し・変更を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる本人や家族の意向に沿った、柔軟な支援やサービスが行えるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し地域との関わりを多く持つことで地域の一員であると感じてもらいたい。また、地域の支援サポーターの訪問も毎月あり、地域とをつなぐ役割にもなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医は、入居時に本人や家族の希望を重視して決定している。定期受診時は職員が同行し係りつけ医との関係を築いて、急変時にも対応して頂けるようにしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、定期受診は職員が同行し、家族に報告している。また、訪問看護師が定期的に訪問して健康管理や急変時の医療との連携が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で気づいたことは常に看護師に報告し、状況に合った対応ができるようにしている。また、訪問看護との連携もできるようになり、定期的な健康管理や急変時の対応ができるようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間がどれくらいになるのか療養計画で確認し、それに沿ってご家族と話し合いを行い、病院関係者との情報交換を行ないながら退院に向けての対応を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期の施設の方針を説明させて頂き、ご家族から同意を得ている。急変時の協力医院や主治医、訪問看護等の連携や、施設で看取りを実施していることなど説明を行っている。	重要事項説明書に、重度化した場合の対応や看取り介護についての指針があり、今年4月に看取りを経験している。管理者は、早い段階から、「意思確認書」を交わすなど文書化し双方の意志確認をおこない利用者や家族が納得のいく最期が迎えられよう整備したいと検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で毎年繰り返しAED等の使用訓練を行っている。また、施設内に緊急時のマニュアルや連絡体制を作成し掲示し急変時に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災については消防署の協力を得て特養との訓練も含めて、昼間・夜間の訓練を実施している。地震、風水害については実施しておらず今後の課題である。</p>	<p>法人が組織化した地域の協力体制があり、夜間に法人との合同訓練を実施したり、昼間想定や自主訓練など年3回避難訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内外研修にて人権やプライバシーについて学ぶ機会もあり、常に意識をしながら業務を行なっている。	年長者として敬い人格を尊重した対応を心がけており、言葉かけや呼びかけにも失礼のないよう努めている。身体介護を伴う場面では、羞恥心に配慮するなど細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けは常に意思決定ができる言葉かけを行うようにしている。言葉ではなくても意思表示をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに合わせ、職員優先にならないよう注意しながら本人の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	調髪・髭剃りは常に気にかけてその都度行っている。家族・本人からの希望があれば近隣の理美容室へ送迎を行っている。衣類については職員が選んでいるが、数名は希望に沿ってできている人もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができる方には台拭きや箸を配ってもらったり食後の下膳等をして頂いている。職員も一緒に同じものを食べることで好みや変化に気付くことができコミュニケーションを図る時間でもあり楽しい時間になるよう心掛けている。	介助される方も増え、食事形態を工夫し、中庭で焼き肉をしたり、ソーメン流し、そば打ち、餅つきを楽しみ、食を通じて季節や行事を身近に感じてもらっている。また、家族と外食を楽しむ方や台拭きや下膳などお手伝いをされる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取量が適切か確認しながら、必要に応じて野菜ジュースやバナナ、菓子パン等の膏カロリーを提供している。栄養士は配置しておらず、日々の献立のカロリー計算はできていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しており、自力でできる方は声掛け・見守りを行う。出来ない方は介助で実施している。夕食後は義歯洗浄剤につけている。必要に応じて訪問歯科を受診される方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意がない方は定期的に声掛け行いトイレで排泄をして頂いている。1人ひとりの意思を確認し排泄パターンも個人の状態に合わせた支援を行っている。車椅子や座位がとれない方も日中はトイレで排泄を実施している。	職員は、トイレで排泄ができるよう積極的に取り組んでおり、排泄の自立支援に力を入れている。ポータブルの使用はなく、日中は尿意、便意の有無に関係なく排泄チェック表の活用や本人のサインを見逃さずトイレ誘導し排泄介助し自立に向けた支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は水分量が不足している場合はジュース類を提供している。食物についても、空芋などの繊維質を積極的に摂取できるよう献立等に工夫している。また、状態によって看護師報告し暖下剤や漢方薬を使用し排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は週に3回で午前と午後に分けて実施している。入浴を拒否される方、体調不良の方がいらっしゃれば時間をずらしたりと無理なく入浴していただいている。出来るだけ要望に沿って柔軟に対応している。	入浴をためらう方もあるが、時間を変更したり職員の連携や入浴のための誘導がマニュアル化されており気持ちよく入浴していただいている。心身機能が低下し、二人介助で入浴される方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、その日の状態に応じてリビングや居室で自由に休んでいただいている。安心して気持ちよく眠れるよう室温管理・照明調整の環境作りができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬や変更になった薬はその都度全職員に報告し用法・用量の確認や服薬後の経過状況の報告を看護師へ行うようにしている。処方箋のコピーは台帳にファイルし確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化傾向にあるが、できる方には洗濯物たたみや台拭き・下膳・野菜の皮むきをしていただいている。地域の行事や施設内の行事に参加されたり、ドライブ等の外出支援の機会を設け楽しみや気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で遠方へ遠足に行ったり花見等の季節を感じる場所へ出かけている。また、天気の良い日はテラスでお茶を飲んだり散歩やドライブに出かけている。	年間の行事計画を作成し、初詣、花見、遠足、祭り見物など、全員だったり個別で外出している。日頃は、テラスで日光浴をしながらお茶を楽しんだり、天候の良い日は、急に思い立ってドライブや散歩に出かけて季節を感じたり、気分転換が図れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人が希望され少額の現金を持っておられる方もいるが、基本的には事務所で管理させて頂いている。欲しい物や必要な物があれば同行されたり職員が買ってきている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話の取次ぎや、自ら家族に電話されたりできるように支援している。手紙を書かれる方はおられないが、家族からの手紙や年賀状は届いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心にソファでゆっくりと座って過ごせるよう設置の工夫をしており、廊下にもソファを設置しており一人になりたい時など自由に使えるよう配慮している。	共有スペースに、畳部屋があり仏壇が置いてある。ソファもあり、思い思いに過ごせるよう配慮されている。採光があり、対面式キッチンになっており音や匂いが五感を刺激している。テーブルではお茶を飲んだり、七夕飾りや貼り絵作りに協同で取り組むなどしている。時間の流れが穏やかで家庭的な雰囲気の空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではテレビもあり利用者同士で話をしたりテレビを一緒に観ながらゆっくりと過ごせている。また、廊下やテラスにもソファやベンチが設置してあり独りになりたい時は自由に使えるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に本人・家族と相談し、使い慣れたものや大切にしているもの（趣味など）を持ってきてもらい居室に置くことで、本人が居心地よく過ごせる空間を提供できている。	誕生日の花束が職員からプレゼントされており、お祝いの寄せ書きが掲示してあった。ぬいぐるみや衣装ケースなどの使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるよう表示を設置し利用者の目線に合わせた設置物の工夫をしている。建物内は安全に生活ができるよう障害物がないよう気を付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		<input checked="" type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない